

## 「広域科学教育学実践のための汎用的資質・能力」自己評価について

### 1. 「広域科学教育学実践のための汎用的資質・能力」とは

「広域科学教育学実践のための汎用的資質・能力」とは、東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科の理念・目標である「広域科学としての教科教育学」実践の素養をなし、自立した研究者となるために本研究科の学びや研究活動を通じて高めていくべき力のことです(学位取得の目安としてディプロマ・ポリシーにも掲げられています)。

これらは研究者として必要なだけでなく、求められる力の共通性に気づくことで、様々な職種で活かすことのできる汎用的な資質・能力と考えられます。

学生の皆さんは、以下に記した3つの力を年度初めにチェックシートで自己評価し、主指導教員を通じて「研究実施計画及び研究指導計画書」とともに提出します(5月中旬まで)。その目的は、皆さんが自立した研究者となるために具体的にどのような知識、スキル、態度を身につけるべきかを示し、主指導教員の指導のもと研究者としての力を計画的に向上させることです。

また、修了年度には、みなさんの最終的な達成度を自己評価してもらいますが、それは自分自身の力を示すものとして大学や企業等への就職活動等にも使用可能です。

### 2. 「広域科学教育学実践のための汎用的資質・能力」の内容

「広域科学教育学実践のための汎用的資質・能力」は、以下の3つの力から構成され、それぞれ①～⑨の観点(資質・能力項目)で評価されます。

#### 1) 理論と実践とを結びつけた専門的に高度な識見

観点① 専門分野の理論と実践に関する高度で幅広い知識

自分が専門とする学問分野や関連分野における重要な理論、概念、実践例などを体系的に深く理解している。自分の研究が現実世界の問題とどのように関連するかを理解し、その応用や実践を考えることができる。

観点② 学術研究における高い倫理性・社会的責任の意識

自らの研究活動にどのような倫理的問題が生じうるかを理解している。研究倫理を守ることがなぜ重要なかが分かっている。研究者として学問の世界とその背後にある社会に対し、どのような責任を果たしていく必要があるかを考えることができる。

## 2) 卓越性と独創性を発揮しうる研究能力

### 観点③ 学術的意義を踏まえた研究の企画・立案力

自分の研究テーマに関する国内外の研究動向や実践上の課題を踏まえ、その分野に新たな発展をもたらすという視点から、どのような研究をどのように行うべきかを考えることができる。

### 観点④ 専門分野に関する研究遂行スキル

自らの研究目的を達成するために必要な研究方法論（分析，実験，調査，実践，開発，論考などのスキル）の適切な使用と限界を理解し、実際に使いこなすことができる。

### 観点⑤ 論理的で伝わりやすい説明能力

自らの主張の妥当性やそう考える理由を様々な観点から論理的に説明することができる。説明の相手や形態，目的に応じて情報提示の仕方を工夫しながら，研究成果などを分かりやすく説明することができる。

### 観点⑥ 目的達成に向けた連携・協働の力

高い成果を上げるために他者の協力を得たり，連携したりすることの重要性を理解し，研究や実践上の繋がりを広げることができる。意見の違いなどを乗り越えながら，同じ目的に向かい他者と協働して研究を進めることができる。

## 3) 広い視野からの思考力と批判的判断力

### 観点⑦ 自他の研究や実践を評価し，向上させる力

自分の研究や実践の強みと弱み，矛盾点などを省察したり，他者の指摘から熟考したりして，それを改善したり発展させることができる。他者の研究や実践についてもその強みや弱みを見だし，改善や発展のための助言ができる。

### 観点⑧ 分野を超えた繋がりを統合する力

自分の専門とは異なるテーマの研究や学問領域に関心を示し，そこから得た示唆を自分の研究に還元することができる。

### 観点⑨ 情報探索とリテラシー

目的に即した情報をさまざまなソースから効果的に収集し，それらの妥当性を評価することができる。

### 3. 各資質・能力項目と本研究科の学びの対応

①～⑨の資質・能力項目は、本研究科の授業科目等とおおむね次のように対応します。色の濃さが関連の深さを表します。

	合同ゼミナール I・II			特別研究 (論文指導)	各授業科目
	研究倫理	研究方法	研究発表		
①専門知識					
②倫理・責任					
③研究企画					
④研究遂行					
⑤説明能力					
⑥連携・協働					
⑦評価・向上					
⑧分野統合					
⑨情報探索					

### 4. チェックシート作成・提出のフローと年間の指導

1～3年次の年度初めにチェックシートを作成し、主指導教員を通じて博士課程係に提出します（5月中旬まで）。課程修了時には最終チェックシートを作成します。

		入学時	1～3年生共通 ※合同ゼミナールは1・2年生のみ										修了時			
		4月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2～3月	
学生	実施項目	4月入学時オリエンテーション	・現状の自己評価 ・年間目標の設定		研究活動の推進・授業履修 合同ゼミナール(10月)										年間の振り返り	最終評価
	実施の具体内容・プログラム	資質・能力の修得と自己評価の実施方法に関する理解	チェックシートによる自己評価		チェックシートによる自己評価の確認・研究の推進 合同ゼミナール(10月)での振り返り										次年度に向けての目標等の検討	チェックシートによる最終自己評価
			年間目標と取り組み内容をチェックシートに記入・提出(5月中旬まで)		チェックシートによる年間目標の確認・研究の推進 合同ゼミナールで(10月)での振り返り											全体の振り返りと今後の課題・目標の設定
			↓ シート提出												↑ 記入返却	↓ シート提出
主指導教員	実施項目	入学時指導	指導計画の策定		指導学生に対する研究指導										最終確認	
	実施の具体内容・業務	・資質・能力の修得と自己評価の実施方法に関する理解(於オリエンテーション) ・個別面談による研究活動・学修活動内容確認等	チェックシートの内容を確認して、指導計画を記入・提出		チェックシートの指導計画にそった研究指導 合同ゼミナールでの講座内指導 副指導教員との連携・連絡 必要に応じた個別面談										研究指導 年度未確認	チェックシートを確認し、資質・能力の最終的な修得状況について総括
			↓ シート提出												↓ シート提出	
博士課程係																